

# 日本周辺国際魚類資源調査

(要 約)

柳谷 智\*

## 目 的

国連海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを完備するための調査を行う。

## 材料と方法

### 1. 漁獲状況調査(調査期間 2012 年 1 月～12 月)

#### (1)クロマグロ

次の漁協等の水揚げ伝票から漁獲月日、漁法、銘柄、体重等のデータを収集した。

日本海 新深浦町漁業協同組合岩崎支所、深浦漁業協同組合及び小泊漁業協同組合

津軽海峡 三厩漁業協同組合

太平洋 尻労漁業協同組合、六ヶ所村海水漁業協同組合、八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場

#### (2)サメ類

八戸地区(八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場)にて漁獲月日、漁法、銘柄、体重のデータを水揚げ伝票から収集した。

### 2. 生物測定調査(調査期間 2012 年 1 月～12 月)

大間漁業協同組合、深浦漁業協同組合及び三厩村漁業協同組合においては、クロマグロ漁獲状況調査に加え、体長、体重データ等を収集した。なお、大間漁協のクロマグロ漁獲状況調査及び生物測定調査は独立行政法人水産総合研究センター国際水産資源研究所が担当した。

## 結 果

### 1. 漁獲状況調査

#### (1)クロマグロ

調査対象 8 地区全体では 777 トンと前年(743 トン)の 105%であった。海域別にみると、日本海(岩崎、深浦、小泊)では 457 トンと前年(462 トン)の 99%、津軽海峡(三厩、大間)では 261 トンと前年(236 トン)の 111%、太平洋(尻労、六ヶ所、八戸)では 59 トンと前年(46 トン)の 128%であった(図 1)。

定置網を主体とした日本海南部の岩崎、深浦は 8 月にピークがみられた。釣り、延縄を主体とした日本海北部の

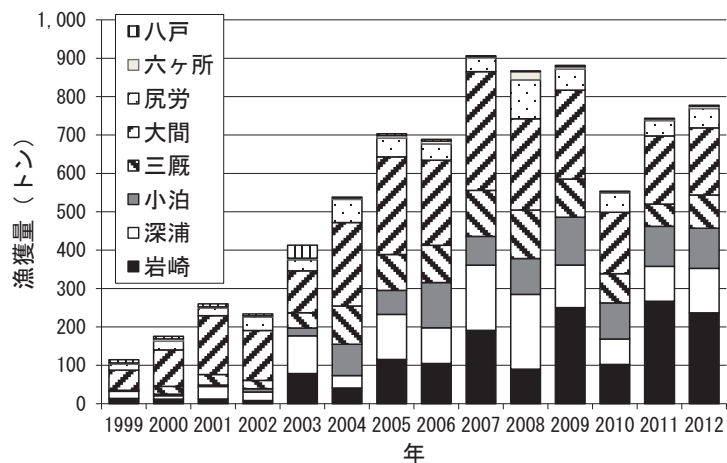


図 1 漁協別クロマグロ年間漁獲量の推移

小泊は8月にピークがみられ、津軽海峡の三厩、大間は10月にピークがみられた。太平洋側は他の2海域に比べて漁獲は少ないが、尻労は7月にピークがみられた(図2)。

(2) サメ類

調査対象の八戸に漁獲されたサメ類の漁獲量は345トンと前年(479トン)の72%であった(図3)。月別にみると冬と春にピークが見られ、2012年は1月に147トンと最も多く漁獲された(図4)。

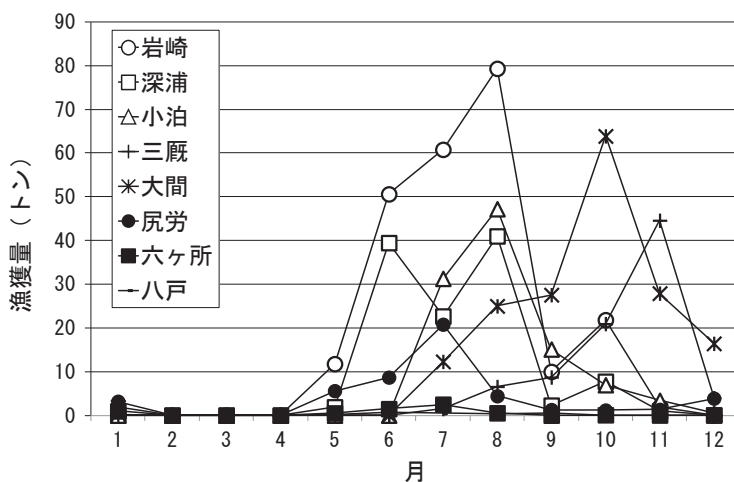


図2 漁協別クロマグロ月別漁獲量の推移

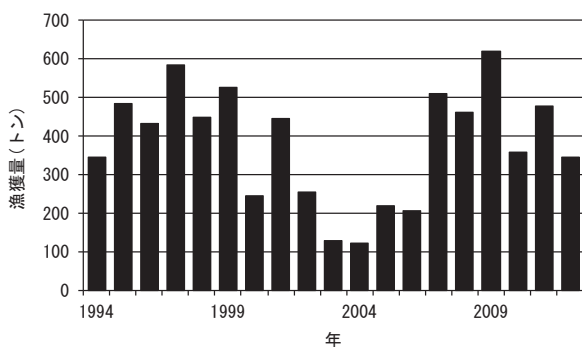


図3 漁協別サメ類年間漁獲量の推移

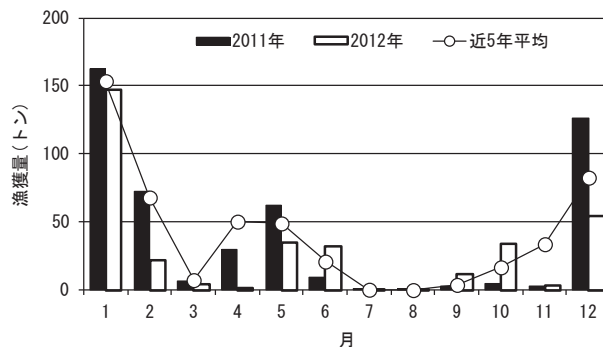


図4 漁協別サメ類月別漁獲量の推移

2. 生物測定調査(クロマグロ)

深浦では伝票記録 10,217 尾中 1,814 尾、三厩では 1,343 尾中 1,299 尾、大間では 953 尾(全数不明)の尾叉長を測定した。深浦では5、6、7月は尾叉長 100cm 以下がみられたものの、120~160cm 台が主体であった。8~11月は60~80cmの小型サイズが主体であった。三厩では7~12月は140~180cm 台が主体で月別の尾叉長組成はほぼ同じであった。大間では1月に180~240cm 台が主体であった。7~10月は110cm 以上がみられたものの、50~90cmの小型サイズが主体であった。12月は160~180cmの大型サイズが主体であった(図5)。

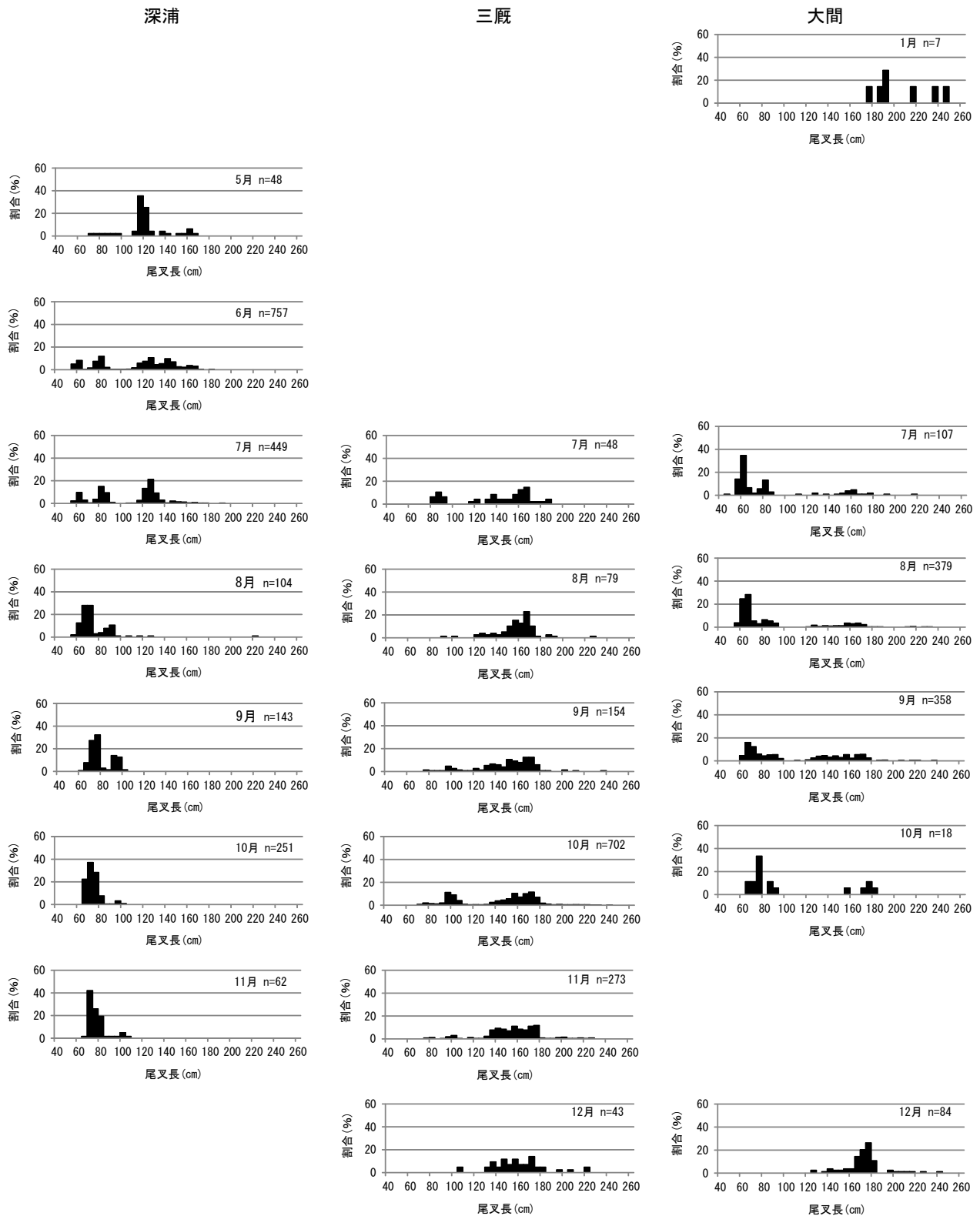


図 5 深浦、三厩、大間の魚体測定結果